

2024年3月29日

各位

株式会社三井住友銀行

大倉工業株式会社に「ESG/SDGs 推進分析融資」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留 朗裕）は、大倉工業株式会社（代表取締役社長執行役員：神田 進）に対し、「ESG/SDGs 推進分析融資」を実施いたしました。

「ESG/SDGs 推進分析融資」は、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が作成した独自の評価基準に基づき企業のESG（※1）側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）（※2）達成への貢献を評価し、取組や情報開示の適切さについての現状分析、今後の課題、課題への取組事例などを還元させていただく融資商品です。

今回の大倉工業株式会社に対する評価結果は、「環境貢献製品・サービスの提供」、「ローカル／グローバル・コミュニティへの配慮」、「サステナビリティマネジメント」において非常に高い水準であると判断されました。

企業経営において優れたESG側面の取組と情報開示を実施されており、また、事業を通じたSDGsへの貢献意欲が高いとの判断となりました。

ESG側面の取組、情報開示では、以下の点等が進んでいるとされました。

- ① 社内で環境貢献製品「Caerula®（カエルラ）」の認定制度を構築し、食品ロスの削減に寄与するエコラップ®や、木質廃材をマテリアルリサイクルしたオークラボード®など、省資源や資源循環等に資する製品を提供しておられる点。
- ② ローカルコミュニティの社会的課題解決への取り組みとして、香川県等と協働し、香川県産材や四国地域材を活用した木質構造材料の製造事業の開始に向けて準備を進めており、国産材の活用促進を通じて森林資源の循環利用を進めておられる点。
- ③ 中期経営計画でサステナビリティ基本方針や推進体制を示し、マテリアリティ（重要課題）として「脱炭素経営の推進」「環境貢献製品の創出と拡大」を掲げるなど、本業を通じてサステナビリティに取り組む姿勢を強化しておられる点。

加えて、事業を通じて、SDGsが示す「目標 12: つくる責任 つかう責任」等の達成に向けた意欲をお持ちです。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs 推進分析融資」により、お客さまの ESG/SDGs への取組を、金融を通じて支援してまいります。



食品ロスの削減に寄与する
エコラップ®



木質廃材をマテリアルリサイクル
したオークラボード®



香川県産材などを活用した
木質構造材料（集成材）

<ご参考>

※1 ESGとは

ESGとは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上